

e-dream-s通信

e-dream-s ホームページ <http://www.e-dream-s.org>

No.21 発行：2002年3月10日特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

タスクプロジェクト報告会に向けて・・・

春もそこまできています。タスクプロジェクト報告会は、3月28日に東京で開催されます。会員のみなさんは、報告会に向けて最後の仕上げに力を注がれていることと思います。春の季節にふさわしく、プロジェクトの中からつぼみができ、花が咲いた（成果が出た）という報告を期待しつつ、報告会へ参加しましょう。出席される方は、後日、詳細が連絡されます。

- 目次
- [1. 「孤立無援の日本」から 井川 好二](#)
 - [2. NGO 問題を考える；その2 中川 房代](#)
 - [3. 週休2日 田辺恵美](#)
 - [4. 「e-dream-s タスク型プロジェクト」てんまつ記 丸野有利子](#)
 - [5. タスクプロジェクト報告](#)
 - [6. お知らせ](#)

教育用フォトアーカイブズ @aglance より「今月の1枚」



中国：大連

「太極拳を楽しむ人々」
早朝より房のついた刀を持って太極拳を楽しむ大連市民達

(8/1993 飯田佐恵 撮影)

@aglance のサイトは

<http://www.e-dream-s.org/aglance>

太極拳を楽しむ人々
早朝より房のついた刀を持って太極拳を楽しむ大連市民達

© e-dream-s

「孤立無援の日本」から

井川好二

アメリカの政治学者 Samuel Huntington の近作 *The Clash of Civilizations and the Remaking of World Order* (1998) によると、冷戦後の世界は、経済や政治による世界の色分けではなく、文化的差異、特に宗教や言語を基準とした「文明」に分かれて動いている。そして、その主なものは、以下の9つであると云う。

- アメリカや EU 諸国を含んだ西欧キリスト教文明。イスラエルもこれに含まれる。
- 旧ソ連や東欧を含んだギリシャ正教文明。
- 北アフリカから中東、今話題のアフガニスタン、パキスタン、さらにマレーシア、インドネシアへと延びるイスラム文明。
- アフリカ大陸の南半分を含むアフリカ文明。
- インドを中心としたヒンズー文明。
- タイ、ミャンマー、ネパール、モンゴルなどを含む仏教文明。
- 中国を中心とする中華文明。
- 中南米諸国からなるラテン・アメリカ文明。
- 日本文明。

こうしてみると、日本は、唯一の孤立無援の文明であることになる。そう云われると、何やら思い当たる節が、いろいろとある。アメリカやヨーロッパとの、親密そうで実はクールな政治経済関係。アジアにおけるイニシアティブを巡る中国との確執。

Huntington は、冷戦後における文明間の衝突は、イデオロギーの差異や経済格差によってより、各文明の断層 (fault line)、つまり境界線上、で、特に宗教上の違いが火種となって起こると云う。最近のアフガニスタン問題 (イスラム世界対キリスト教世界) や、インドとパキスタン (イスラム世界対ヒンズー世界) の国境紛争、パレスチナ情勢 (ユダヤ教=キリスト

教世界対イスラム世界)などは、この例である。

特に、これらの文明のうち、イスラム世界と中華世界における人口の増加と、近代化の進行が大きなポイントとなる。この活発に影響力を増す二つの文明にどう対処するかが、各国の、特に世界唯一の超大国となったアメリカの、外交政策の要であると、Huntington は云う。

こうした文化、宗教上の対立が 21 世紀の紛争の基本となると云うならば、日本はどのような立場をとれば良いのだろうか？西欧キリスト教世界にも属さず、中華世界の一員でもない日本の立場は、どうなるのだろうか？現在のアメリカ一辺倒な外交で、果たして良いのだろうか？ポイントは、対米政策と対中政策。もっと、はっきり云えば、「脱亜入欧」を更に押し進めるのか、「脱欧入亜」に転換するのか？はたまた、第 3 の道はあるのか？

鬼面人を威す言動が得意な政治家、石原慎太郎は、知り合いの発言であると前置きし、個人的には好きではないのだがとしながらも、以下のような具体策を示す。

All disputes between Japan and the United States could be resolved if Japan was brave enough to be the 52nd state of the U.S. [Ishihara (2002, Jan 8). Japan must regain its identity, assert itself after Sept. 11, *The Yomiuri Shimbun*.]

日本が丸ごと、アメリカ合衆国の 52 番目の州になれば良い。そうなることによって、日米間の幾多の問題は、即解決する、と云う。そうなれば、岸田秀の云う日本人の江戸末の開国によって「引き裂かれた自我」も解消し、Huntington の云う文明の衝突も回避される。ちなみに、52 番目と云うのは、アメリカは現在 50 州からなっており、近い将来プエルトリコが 51 番目の州になることは、ほぼ間違いないからである。

人口 1 億 2 千万人で世界第 2 位の経済国家である日本が、人口 2 億 4 千万人で経済 No.1 のアメリカと合併すれば、人口は 3 億 6 千万人で、大西洋岸から太平洋の西の端までを領土に持ち、史上最強の経済力を誇る国家が誕生する。無論、日本の首相は州知事となり、「日本州」は、カナダと同様に、日本語と英語を公用語とするバイリンガル州とする。

石原も云うように、日本人として俄にこれに飛びつこうとは思わないが、現在のどっちつかずの日米関係をだらだら続けていくより、こう云う思い切った仮説を立ててみる方が、日本の将来を見通す上で意味があることは、事実である。

大風呂敷を広げることでは引けを取らない経営コンサルタント、大前研一は、こうした「文明の衝突」的世界観とは、別の観点から提案する。世界の唯一の超大国であるアメリカ合衆国の大統領は、実質「世界大統領」である訳だから、大統領選挙に世界の声を反映させるべきである、と云う。2000年に行われた米大統領選で結果が僅差でもつれ、フロリダ州パームビーチの得票でようやくブッシュに決まった事にふれて、大前は云う。

In short, Americans have now gotten a taste of the way the rest of the world feels with each presidential election. Citizens of Asia, Europe, Africa and South America wait for election news to trickle down to us every four years, knowing that although we have no voice in his selection, the U.S. president will wield more power over us than many of our own elected officials. [Ohmae (2000, Dec. 10). U.S. presidential elections should go global. *The Japan Times*.]

場合によっては、日本の首相より、アメリカ大統領の方が、日本および日本国民の将来に大きな影響を及ぼすのだから、我々にも選ぶ権利を与えるべきだ、というのである。例えば、今般のアフガニスタン復興のために、日本は多額の援助を約束しているが、もちろんこれは全て税金から支出されるわけである。大統領がブッシュでなければ、戦争に至らなかった可能性もあり、例え戦争が行われたとしても、破壊の程度が少なくこれほどの復興援助は必要なかったかも知れない。ちなみに、この戦争でアメリカの軍事産業が大きく潤ったであろうことは疑いないのだが。

石原の提案も、大前の主張も、Huntington の冷戦後の世界観を下敷きにしてみると、日本が国として、文明としての孤立から、如何にすれば脱却できるかと云うポイントに尽きている。

従来之国と国との結びつきを、国際関係の機軸に据えるなら、石原案は面白いし、世界国家の形成の方向を取るなら、大前案であろう。いずれにせよ、孤独な大国としての日本の前途を、今早急に考えなければならぬ。国際派 NPO 活動の視点も、そこになければならぬ。
(Saturday, March 9, 2002)



[目次へ](#)

NGO 問題を考える ; その 2

中 川 房 代

アフガニスタン復興支援会議への NGO 拒否問題は、ワイドショーでもトピックは「スズキムネオ」ばかり、という不思議な現象にまで発展(?)している。前号で、私は NGO/NPO の側から行政との役割分担の重要性について書いたが、今回は行政や社会から見た NGO/NPO の評価について書こうと思う。

今回のアフガニスタン問題での NGO の参加拒否は、「外務省の古い体質」を始めいくつか原因があると思うが、行政が協働（コラボレーション）して仕事をしたいと思う NGO/NPO の条件とは何だろうか。

まずは、その団体のその分野における業績・成果や活動内容。目的に適う活動をしていること、そして成果が上がっている、または上がる可能性があるかどうか。一生懸命やっても成果が上がっていなかったり、上がる見込みのない団体とは一緒に活動してもあまりメリットがないだろう。

2つ目は、その団体の信頼度。これには団体としての情報公開や会計の透明性なども大きな要素になる。その団体の広報活動の展開の仕方も含まれる。いくら意義のあることをしていてもお金の流れがいい加減なところには、誰もお金を出さないだろう。

行政や財団などが助成金を出すときには、加えて企画の発想の独創性や計画の緻密さなども考慮に入っているだろう。どういう団体をパートナーとするか、あるいはスポンサーとしてお金を出すのか。

そこで問題になってくるのは、NGO/NPO の事業評価の基準である。企業ならば、売り上げや株価、組織体制などが明白で、評価基準も社会的に明らかになっている。

NGO/NPO はどうだろうか。

企業で重視される「効率」や「経済性」も、NPO の活動内容によってはむしろ追求し

てはいけない価値となる場合も多いだろう。シーズの松原さんがアメリカに視察に行ったときに、こう言われたのだそうだ。

芸術でも社会サービスでも、すぐれた NPO は、新しい価値を広め、人々の社会観を変えていく創造性を持つ。それを従来の価値観で評価することはできないでしょう。NPO の評価はその支援者がするものである。NPO の一番大切な部分というのは、市民の多様な価値観を代弁し、実現していくことにある。

多様性が 1 つの特徴である NGO/NPO を一律に評価するのは困難である。しかし、たくさんある団体の中で、長く続いていく団体、支援者の増えていく団体とそうでない団体とは、今後自ずから分かれていくだろうと思う。その評価基準を決めていくのは、社会であり、私たち一人一人であるのだろう。

そういう意味では、今回のアフガン問題は、まだその評価基準のはっきりしない日本の市民社会の未成熟さを世界に露呈してしまったのかもしれないなあ。私たちがしっかり見極める目を持っていかなければ！

[目次へ](#)

週休 2 日

田 辺 恵 美

今日は休日出勤をした。部活動の生徒の試合へ引率をしたのである。といっても、中学校、および高校で運動部の顧問をしている教師にとっては、それは、珍しいことではない。試合のみならず、練習や練習試合で休日を返上して部活指導に励む教師がたくさんいる。最近では、教師の高齢化もあって、どの学校でも部活動、特に運動部の持ち手が足りなくなり、クラブ数も減少しつつあるのが現状である。その対策として、ある学校の運動部へ、他の学校からの生徒も参加することのできる制度や、学校の教師以外で、例えば地域の保護者に、指導員として技術面での指導をお願いできる制度なども出来たが、根本的な解決にはなっていない。私が言う、根本的な解決というのは、「学校の教師が、その専門ではないにもかかわらず、放

課後や休日に活動する部活動の指導を行わなければならない」という問題に対することである。これは、どう考えてもおかしいことではないだろうか。

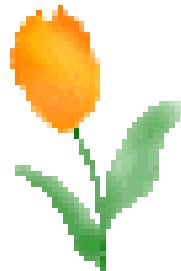
私自身、初めて赴任した中学校で6年間、軟式テニス部の顧問をつとめた。私のテニス歴というと、大学時代にテニスサークルで4年間活動したのみで、しかも、硬式テニスである。軟式テニスと硬式テニスは、全く別の種目と言えるほどの違いがある。テニスの腕前のほうも、楽しくテニスが出来るほどで、試合には勝つことのほうが少なかった。では、どうして軟式テニス部を持つことになったかという、たまたま、その時に軟式テニス部の顧問が足りなかったからである。赴任時に、「陸上部かテニス部かどちらにしますか。」と言われれば、テニス部を選ぶより他はなかった。今ならば、「英語部はありませんか。」という度胸もあるのだが、何も知らない私はそうせざるを得なかった。かくして、私の6年間の苦闘が始まったわけである。自分もうまくできないことを教えなければならない辛さ、放課後、休日を返上しての練習や試合。どうして、部活動をしなければならないのか、疑問の念は次第に大きくなるばかりだった。

しかし、学校現場では、部活指導はいわば「当たり前」の仕事としてとらえられている。全教職員がいずれかの部活動の顧問に割り当てられている。私は、生徒がスポーツや芸術文化的な活動に参加することは大切なことで、価値のあることだと思う。しかし、「勉強はあまりできないけど、クラブはがんばっているからよい」、「クラブでエネルギーを発散させないと、何をするか心配」、「家にいても、テレビやゲームをするだけだから」という一部の教師や保護者の意見には私は反対である。

4月からは学習指導要領の改訂にともなって、学校が週休2日になる。子どもたちの休日の過ごし方について、いろいろと論議がされている。でも、休日は本来、「休みの日」なのだ。

「休みの日」に何をさせるべきか、という問題は他人がとやかくいう問題ではない。家庭と本人とで、決めればいいことではないか。そして、学校は、週休2日になることについて、何の後ろめたさも感じる必要もない。私たちは、今、やるべきこと、新しい指導要領に基づきどのような学校づくりをするのかを考えること、学校、生徒の様々な問題を検討し、前向きな方針や対策を考え、改革していくことに全力を注ぐべきではないだろうか。

間違っても、「休日の部活動を積極的に行おう」という方向には行かないように。



[目次へ](#)

「e-dream-s タスク型プロジェクト」てんまつ記

丸 野 有 利 子

e-dream-s 本部は元気だ。いや、会員を元気にさせようとしているのかもしれない。湯を入れる、という方が近いかも。百花繚乱ならぬタスク繚乱だ！とタスク型プロジェクトを打ち出してきた。-- ちなみにタスク繚乱というネーミングはちょっと気取りすぎていると思うのは私だけだろうか。考えたのはダンディーな H 氏あたりだろうか。-- 独り言はこの辺にしておいて。

私は浅野さんを隊長とする「ホームページ・プロジェクト」隊に入隊した。ホームページのコンテンツを考え、e-dream-s の会員・組織の IT 化を推進するというのがテーマ。浅野さんは「自分のためになるから」と自ら隊長、いやリーダーを申し出て下さった。私は News ACD-ROM 化プロジェクトで手一杯だから勘弁して、と小関さんに頼んだのにあっさり却下されてくすぶっていた。しかし浅野隊長はそんなことにお構いなく、私たち隊員（田辺さん、山本さん、丸野）をプロジェクト完成に向かいぐいぐい引っ張って行った。

私はその中で「写真アーカイブの写真利用例を紹介するページ」を担当することにした。が、のっけから壁にぶち当たる。教員ではないので授業で使ってみることができないのだ。そこで大阪メンバーの手を煩わせてアンケートを配布していただいた。実習やら訓練やらで慌ただしい中、6 名の方が授業での利用例を教えて下さった。辻岡さん、岡田さん、前原さん、小関さん、田辺さん、浅野さん、どうもありがとうございました。とくに浅野隊長は職場の先生方に聞いて回って下さり、いくつもアイデアを寄せて下さった。感激のあまり、もう私もくすぶってはいられなくなった。2 月中に自分の担当を完成せよ、との隊長の指示に応えようと、出張先の広島にパソコンを持参し、夜遅くまで宿で取り組んだのだった。

皆さまからいただいたアイデアを取り入れながら、やっとアーカイブ紹介ページが出来上がり、無事高力さんに HTML コーディングを依頼することができた。3 月 28 日の発表をお楽しみに。

[目次へ](#)



タスクプロジェクト報告

タスクプロジェクト事務局：小関静枝

10月に始まりました報告も半年が過ぎ、報告会を残すのみとなりました。タスクを通して各自が e-dream-s、写真アーカイブのあり方、今後に向けての取り組みについて考えたことを報告会で出しあえたらと思います。グループの話し合いをよろしく願います。

1) 小学校の先生プロジェクト

東京（富永、阿部、石黒、大竹、塩脇、志村）

（富永先生の報告）

東京支部では 共通のアンケートを作り、知り合いの小学校の先生に回答してもらっているところです。来週早々、集計に入れると思います。

富永個人のことですが、娘の通う小学校で12月から1月にかけて、国語の授業「スーホの白い馬」に合わせて、アーカイブのことを紹介しましたが結局、開いて見てはくささいましたが、アーカイブの写真を使うまでには至らず生写真から20枚くらい選んでもらい、それに私が小2の子供たちにわかるような説明をつけて授業で使ってもらいました。

小学校の先生が選ばれた写真は、アーカイブにも載っていましたが、なぜプリンターがあるのに、直接それを使わずに生写真を使って、しかもそれらの写真を後でわざわざ自校のコンピュータに取り込まれたのか、調査中です。

写真自体は(来年以降使用するためにコンピュータに取り込まれたことからわかるように)先生にも、生徒にも好評でした。そのあたりの矛盾をしらべていきたいと思っています。

大阪（岡崎、稲川、薮）

（岡崎先生の報告）

残念ながら前回の報告からとくに進展はしていません。

3月末の報告会については、10日にメンバーで相談しようと思います。

（薮先生の報告）

当てにしていた同僚の先生の奥様の小学校が和歌山にあり、訪ねるには遠すぎるものが

わかりました。他にコネがないので困っていたところ、冬合宿の井川先生の聴講に来てくださった河合さんという方が私の職場から2、3分のところにある私立の学校に勤めておられることを知り、その学校には小学校もあるので、今連絡をとってもらっているところです。写真についてのアンケートは自分で作ります。理想的には道面先生のように、写真を検索しながらアンケートをとるのがよいのですが、学年末の忙しい時期なので、紙面上でのみ答えてもらえるものや、場合によっては、○をつけるだけの簡単なアンケートも考案中です。いずれにしても、河合さんの学校の小学校の先生方が応じてくださらなければ、他を当てるしかありません。最悪の場合は学校の近所の公立小学校の校長室へアポなしでお願いに上がるしかありませんが、なるべくこれは避けたいです

広島（道面）

（道面先生の報告）

2月ほうまく先生方とコンタクトが取れず、報告事項はありません。

2) インターネットプロジェクト（小関、灰田、新谷、増田、吉本屋）

*先月提供を受けた写真の整理を行っています。

予想していたより手間がかかり新しいサイトとの交渉に今月は時間が取れませんでした。

*検索をしていると大きな写真が掲載されているところもあることがわかりました。

写真を収集する手段として今後も継続して取り組んでいけるだろうと考えています。

今回は吉本屋さんがサイトとの交渉を行ってくださいましたが、2人ではできる作業に限りがあるのがつらいところです。

*今月新たに提供許可を得たサイト

<http://www.johnchoyphoto.com/> 韓国のアマチュアカメラマン John さんのサイト)

約40枚

3) 写真クラブプロジェクト（前原、飯田、宮城、山本貴、内田）

（飯田先生の報告）

1. 先月より京都在住の photographer 佐橋氏から提供いただいた写真の整理中。約40枚
2. 最近、旅行から帰ってきた友人、親戚から借りた写真の整理中。約15枚
3. 同窓会、ボランティアの会合、活動で出会った人に（外国人を含む）試作中の @aglance を紹介して協力してくれるようお願いしている。

(前原先生の報告)

東京書籍へ提供する残り 110 枚分の処理中。

(山本貴子先生の報告)

ALT に写真提供してもらったが、使えそうな物が無く、提供先を再度探している途中。

4) HP コンテンツを考えるプロジェクト (浅野、田辺、山本賢、丸野)

(浅野先生の報告)

ページのデザインが決まったものから、それぞれ高力さんに HTML 作成を依頼しています。報告会でみなさんにお見せできるように、頑張っています

5) リンクページの作成プロジェクト (木村、朴、山本賢治)

(木村先生の報告)

単元学習用のホームページ調べを行っております。現在検索中の中で、いいなあ〜と思っているものを、

紹介しますので、皆様もご覧になって下さい。

学びの場・・・ https://www.manabinoba.com/s_subscribe/indexcfm

東京書籍・・・ <http://www.sing.co.jp/linkold/manabi/eigo/tyu3tosh.htm>

三省堂・・・ <http://www.sing.co.jp/linkold/manabi/eigo/tyu3tosh.htm>

6) NPO 団体訪問プロジェクト (岡田、佐藤)

(岡田先生の報告です。)

ホームページに相互リンクできる団体をインターネット上であたっています。

NPO 団体中心にさがしていますが、検索すると、国際交流の分野ですと、途上国の教育支援の団体、教育の分野ですと、フリースクールやサポート校などの団体が多いようです。写真アーカイブのことを考えると、教員の研修団体などつながりが持てればよいと考え、今後はその方面をさがすつもりです。3月までに10くらいの団体と相互リンクの了承をとることを目標に二人でさがします。現在の候補は次の3つです。

1. NGO ボランティアグループ「コープケン・マーク」との相互リンク

HP : <http://www1.newweb.ne.jp/wa/khoop-khun/>

2. 「NPO/NGO Walker Navi」への登録

<http://npo.info/>

3. /NPOの相互連携を目指すNPOリンク集//への登録

<http://www.bekkoame.ne.jp/~kaihou/>

[目次へ](#)

お知らせ

<イベント情報>

「NPOたすけ隊による年度末ノウハウ講座」

日時：4月24日（水）

〔午前の部〕年度末報告の基礎知識 10:00～12:00

〔午後の部〕年度末実践実務ノウハウ講座 13:00～18:30

場所：大阪NPOプラザ3階ホール

（大阪市福島区吉野4-29-20）

費用：〔午前の部〕1名につき500円（資料代として）

〔午後の部〕5000円（会員）、8000円（非会員・当日入会可）

申込み：大阪NPOセンター

連続セミナー「市民社会構築への展望を語る」□市民活動センター神戸

第3回：3月15日（金）18:00～21:00「行政との協働を改めて考える」

～米国の地域開発包括補助金を例に～

松原明さん（シーズ事務局長）

場所：神戸勤労会館 307号室

第4回：3月24日（日）10:00～12:30「地域から市民社会をつくる」

加藤哲夫さん（せんだい・みやぎNPOセンター代表理事）

場所未定

第5回：3月24日（日）13:00～15:00「兵庫から市民社会をつくる」

加藤哲夫さん・今田忠さん（市民社会研究所所長）（第4回と同日、同所）

問合せ：（特活）市民活動センター神戸（担当：橘高、山根）

〒651-0065 神戸市中央区割塚通 4-2-6

Tel:078-265-3530 Fax:078-265-3577

E-mail：<mailto:kiroku@dodirect.com>

<助成金情報>

パートナーシップ大賞―（特活）パートナーシップ・サポートセンター

対象事業：日本に所在する NPO と企業との協働事業

応募条件：1998年12月1日以降に行われた事業

賞：パートナーシップ大賞1件、パートナーシップ賞数件、

…NPO に記念盾（品）と副賞、企業には記念盾（品）を贈呈

締切：3月29日（金）17時必着

問合せ：（特活）パートナーシップ・サポートセンター

「パートナーシップ大賞募集係」（担当：岸田、遠藤）

〒464-0848 名古屋市千種区春岡 1-1-5 2B

Tel：052-762-0401 Fax：052-762-0407

URL：<http://www.psc.or.jp/> E-mail：<mailto:PSCnpo@aol.com>

日米 NPO ネクサス協働プロジェクト助成プログラム

共通の課題に取り組む日米の NPO 間の協働プロジェクト実施をサポートするプログラム。両国より少なくとも1団体が携わり、実施期間が9～12カ月間の日米 NPO 間の協働プロジェクトが対象です。プログラム参加団体が日米協働事業により、具体的な成果をあげることができるように、立ち上げ資金と仲介支援を提供。

応募対象：米国側は 501 (c) 3 非課税団体であること、日本側は民間非営利団体（法人格不問）、2002 年 4 月 1 日の時点で、設立されてから 1 年以上経過している団体であること等。

締切：4 月 1 日

プロジェクト数：4～8

対象分野：環境、国際協力・開発、まちづくり、教育・青少年、福祉・医療、その他

プロジェクト費：\$ 5000～\$ 20000

問合せ：日米コミュニティ・エクスチェンジ（担当：キンバリー・ヒューズ）

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-2-2-9F

Tel:03-5805-3920 Fax:03-5805-3921

E-mail:<mailto:kim@jucee.org> URL : <http://www.jucee.org/jp>

タスクプロジェクト報告会のご案内

日時：3月28日（木） 13:30～16:00

場所：練馬区立開進第2中学校 セミナーハウス「松山館」

西武池袋線 練馬下車徒歩7分（東京駅から1時間あればこられます。）

*以下のアドレスをインターネットで見ると、駅から会場までの地図を見ることができます。

<http://www.do-map.net/m.htm?E=-50KBoXh8-m>

編集後記

いろんな写真やイラストを文書に挿入するのは簡単で、また、楽しいことでもあります。インターネット上では、「フリー素材」で検索するとたくさんのサイトが、無料でダウンロードして使えるイラストを提供しています。今、よく使わせていただいているのは、Original Free Web Graphics LITTLE HOUSE <http://homepage1.nifty.com/kumamis/> です。月別にいろんな素材を探すことができます。気に入ったものが見つければ、右クリックして画像の保存をしておいて、文書の作成時に挿入します。味気ない紙面でも、ちょっとした工夫で楽しいものになりますよ。

e-dream-s 通信へ原稿をお寄せください。

3月号へのご感想などもお待ちしております。

田辺恵美 tanabe@e-dream-s.org



